

最近の調剤医療費（電算処理分）の動向 平成 28 年 2 月

○ 概要

(1) 平成 28 年 2 月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同様。）は 6,843 億円（伸び率（対前年度同期比、以下同様。）17.8%）で、処方せん 1 枚当たり調剤医療費は 9,522 円（伸び率 5.7%）であった。（→P.1~2）

調剤医療費の内訳は、技術料が 1,582 億円（伸び率 10.7%）、薬剤料が 5,251 億円（伸び率 20.2%）で、薬剤料のうち、後発医薬品が 756 億円（伸び率 24.0%）であった。（→P.4）

3要素分解 （→P.8~9）	処方せん 1 枚当たり 薬剤料	処方せん 1 枚当たり 薬剤種類数	1 種類当たり 投薬日数	1 種類 1 日当たり 薬剤料
実数	6,017 円	2.82 種類	21.7 日	98 円
伸び率（%）	+8.3	▲2.0	▲1.5	+12.1

(2) 薬剤料の約 85% を占める内服薬 4,324 億円（伸び幅（対前年度同期差、以下同様。）740 億円）を薬効大分類にみると、総額が最も高かったのは 21 循環器官用薬の 890 億円（伸び幅 53 億円）で、伸び幅が最も高かったのは 62 化学療法剤の 430 億円（総額 608 億円）であった。（→P.10）

年齢区分 （→P.10~15）	内服薬 総額 （伸び幅）	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	4,324 億円 （+740 億円）	21 循環器官用薬 （890 億円）	11 中枢神経系用薬 （642 億円）	62 化学療法剤 （608 億円）
0 歳以上 5 歳未満	47.8 億円 （+7.1 億円）	44 アレルギー用薬 （17.9 億円）	62 化学療法剤 （10.4 億円）	61 抗生物質製剤 （10.3 億円）
5 歳以上 15 歳未満	122.2 億円 （+22.5 億円）	44 アレルギー用薬 （53.3 億円）	61 抗生物質製剤 （17.8 億円）	62 化学療法剤 （16.7 億円）
15 歳以上 65 歳未満	1,551 億円 （+280 億円）	11 中枢神経系用薬 （280 億円）	21 循環器官用薬 （269 億円）	62 化学療法剤 （266 億円）
65 歳以上 75 歳未満	1,112 億円 （+211 億円）	21 循環器官用薬 （274 億円）	62 化学療法剤 （185 億円）	39 その他の代謝性 医薬品（155 億円）
75 歳以上	1,490 億円 （+220 億円）	21 循環器官用薬 （345 億円）	11 中枢神経系用薬 （235 億円）	39 その他の代謝性 医薬品（169 億円）

(3) 処方せん 1 枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では 9,522 円（伸び率 5.7%）で、最も高かったのは京都府（11,879 円（伸び率 10.0%））、最も低かったのは福岡県（8,312 円（伸び率 5.4%））であった。

また、伸び率が最も高かったのは佐賀県（伸び率 15.3%）、最も低かったのは新潟県（伸び率 2.4%）であった。（→P.27~28）

《《後発医薬品の使用状況について》》

【後発医薬品薬剤料】 756 億円（伸び率： 24.0%、伸び幅 147 億円）（→P.36~37）

【後発医薬品割合】（→P.35）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） ^注	62.4%	+4.2%
薬剤料ベース	14.4%	+0.5%
後発品調剤率	65.5%	+3.5%
（参考）数量ベース（旧指標）	42.0%	+3.8%

注）〔後発医薬品の数量〕 / （〔後発医薬品のある先発医薬品の数量〕 + 〔後発医薬品の数量〕）で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.37）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	+24.0%	+35.4% （5 歳以上 10 歳未満）	+16.4% （60 歳以上 65 歳未満）
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	14.4%	15.5% （75 歳以上）	9.6% （5 歳以上 10 歳未満）

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】（→P.38~44）

年齢区分 （→P.38~44）	内服薬 総額 （伸び幅）	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	671 億円 （+131 億円）	21 循環器官用薬 （185 億円）	23 消化器官用薬 （109 億円）	11 中枢神経系用薬 （72 億円）
0 歳以上 5 歳未満	5.9 億円 （+1.1 億円）	22 呼吸器官用薬 （2.2 億円）	61 抗生物質製剤 （1.5 億円）	44 アレルギー用薬 （1.1 億円）
5 歳以上 15 歳未満	15.7 億円 （+3.8 億円）	44 アレルギー用薬 （7.1 億円）	61 抗生物質製剤 （3.6 億円）	22 呼吸器官用薬 （2.9 億円）
15 歳以上 65 歳未満	233 億円 （+42 億円）	21 循環器官用薬 （54 億円）	44 アレルギー用薬 （40 億円）	23 消化器官用薬 （32 億円）
65 歳以上 75 歳未満	172 億円 （+33 億円）	21 循環器官用薬 （61 億円）	23 消化器官用薬 （28 億円）	39 その他の代謝性 医薬品（19 億円）
75 歳以上	245 億円 （+50 億円）	21 循環器官用薬 （70 億円）	23 消化器官用薬 （48 億円）	11 中枢神経系用薬 （32 億円）

【後発医薬品 都道府県別】（→P.57~62）

	全国	最高	最低
処方せん 1 枚当たり後発医薬品薬剤料	1,052 円	1,430 円（岩手県）	859 円（佐賀県）
処方せん 1 枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	+11.3%	+20.9%（愛媛県）	+8.5%（奈良県）
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	62.4%	74.7%（沖縄県）	52.5%（徳島県）
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	14.4%	18.6%（沖縄県）	11.5%（徳島県）
後発医薬品調剤率	65.5%	76.9%（沖縄県）	57.8%（山梨県）
（参考）旧指標による後発医薬品割合（数量ベース）	42.0%	53.4%（沖縄県）	35.5%（徳島県）

〔利用上の留意点〕

分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 平成 28 年 2 月現在の電算処理割合は、処方せん枚数ベース、医療費ベースともに約 99%である。